



文豪ブーム到来!?(前編)



夏目漱石の『こころ』や、太宰治の『人間失格』など、有名文学作品をみなさんは読んだことがあるでしょうか。活字離れと言われる昨今、読んだことがない方も多いと思います。そんな中、彼ら文豪たちの不朽の名作に、若い世代の注目が集まっているそうです。ただし・・・想像とは違う、一風変わったブームのようです。今回は、そんな文豪ブームの中から、いくつか紹介したいと思います。

こころオブ・ザ・デッド (コミックアース・スター)

発行から 100 年以上経過する夏目漱石の名作『こころ』を題材に、ゾンビ作品として復活させたネット漫画。原作の主人公「私」と「先生」が、ゾンビハンターとその師匠として登場します。話の本筋は変わらないため、原作を読んだ気になれるかも？

漱石アンドロイド (二松学舎大学)

創立 140 周年事業の一環で制作された、夏目漱石の姿かたちをしたアンドロイド。顔は保存されていた漱石の「デスマスク」を 3D スキャンし、音声は漱石の孫にあたる夏目房之介氏が担当しました。先日、二松学舎の学生を前に朗読講義を行いました。

文豪ストレイドッグス (角川書店)

中島敦や太宰治などの文豪たちをキャラクター化し、それぞれの作品の名前がついた能力で戦うバトル漫画 (通称：文スト)。この「文豪ブーム」の火付け役とも言われ、昨年アニメ化もされました。作者縁の地には、登場キャラクターのスタンド看板が設置されていることも。

文豪とアルケミスト (DMMGAMES)

戦艦を擬人化した「艦隊これくしょん」(通称：艦これ)、刀剣を擬人化した「刀剣乱舞」(通称：刀らぶ) に続いて、文豪がキャラクター化されたネットゲーム。文豪たちがどれもイケメン化されているため、女性たちの間でブームになりつつあります。

文豪マフラー (ヴィレッジヴァンガード)

太宰治の「人間失格」の冒頭部分「恥の多い生涯を送ってきました。」がプリントされたマフラー。他にも、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」や、夢野久作の「ドグラ・マグラ」がプリントされたものもあります。注文が後を絶たず、予約注文状態となっています。

文豪が〇〇を書いたら (Twitter)

発端は「村上春樹がカップ焼きそばの作り方を書いたら」というツイート。作家独特の言い回しが笑いのツボに入り、爆発的に拡散されました。太宰治や江戸川乱歩など、他の作家のバージョンや、「PPAP を書いたら」など他のネタも作られています。